



## 経営の散歩道

川中経営研究所  
所長 川中清司

▼夫婦関係がひきおこすストレスは大きい。

アメリカのホームズらの研究「ストレスの順位」によると、配偶者の死を一〇〇点として、離婚七三、別居六五で徴役の六三を上回っている。

▼女性は男性よりもストレスが起きやすい。専業主婦の五九％がストレスに悩んでいる（昭和六十三年厚生省調査）。なかでも中高年の女性は「心の病い」にかかる率が高い。

家庭を守りつづけ、やがて子供が手放れし夫も定年という年代の主婦をおそう「空の巣症候群」がある。

特に五月はその発病が多い。寂しさやイライラ、頭痛、腰痛、めまいといった更年期症状にプラスして、もの悲しく落ち込み、思い沈んで、ヒステリックな状態が強くなるという症状だ。

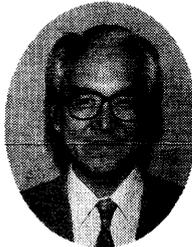
▼家庭裁判所の離婚調停の申し立てをみると妻の方からが七割を占める。

「家庭を顧みないで全精力を仕事に注ぎこむ会社人間はもうごめんだ」とA子（四七才）は

いう。

そこには女性に経済的なゆとりができてきて、ご主人の収入に頼らなくてもやっていけるという時代背景もみえる。

総理府の調査（平成四年三月）でも、「十分に自立、ある程度自立」している女性が五八・六％もいる。――



### 第四十八回

## 夫婦の和合

ではこの十年で倍増している。

「いま離婚して、せめてこれからしばらくの自分だけの人生を」と願うのは我ままでしょうか

夫は外で稼ぎ妻は内を守り子を育てる、夫唱婦隨で一家円満というの昔の話。内助の功が否定される時代になりつつある。「とにかく疲れた。いつも私ばっかりぎせいになって、家にしばられて何の楽しみもない」と妻たちはぐちる。

強がっていつも日本の年配の男性は妻への依存度が高く、炊事、洗濯、掃除など生きる基本のほとんどは頼りつばなしの人が多い。そのため奥さんに先立たれたとき、独りで生きていくスベが身についていないからだという。

▼男は弱い。  
ご主人が亡くなった後も奥さんの生きのびる年数は長いが、奥さんを亡くした旦那さんの余命は驚くほど短い。

▼仕事でへとへとに疲れやつと家にたどりついてても、迎える妻の態度が冷たく笑顔ひとつもな

いとしたり、傷ついた企業戦士はどこで心をいやしたらよいのか。  
家に帰って気がねするより赤ちようちんで気分を直し、カプセルホテルに泊るという帰らん族もふえている。

▼職場生活の不安におそわられているミドル層は意外に多い。  
週休二日制だ、時短だと叫ばれても、仕事の絶対量は増えつづけ責任は重くのしかかる。所

だれも助けてはくれない。所

詮、自分の部署のアナは自分で始末するしかない。気楽に休みをとってしまう部下の分と、業績アップの目標を背おった幹部は身も心も切りきざまれていく。それに追いうちをかけるように妻たちとの「冷戦」が、傷をさらに深めてしまう。

▼読売新聞の調査「配偶者になにを期待するか」（平成二年）によると、

- 1、子供の面倒を見、しつけ、教育をする（四九％）
- 2、親や親せきとの仲をうまくこなす（四四％）
- 3、自分となるべく多くのレジャーや趣味を楽しむ（二八％）

この三つが大きな割りあいをしめ、料理、掃除、洗濯などの家事をする（三〇％）、自分を束縛くしない（二二％）がこれに続く。

こうした行いを夫婦お互いが努力しあうなかに、家庭円満の明りもみえてくるのではないから防ぐためにも、会社ぐるみで夫婦和合のアクションをおこす必要がありそうだ。